

トホクのインゲン栽培方法

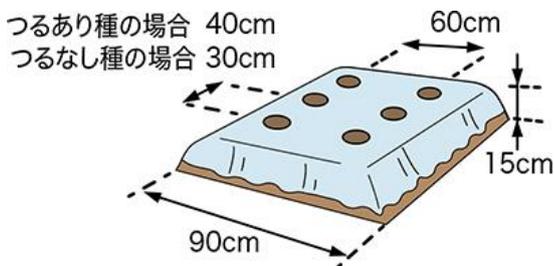
発芽適温：20～25℃ 生育適温：20～25℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4年あける

1. 作物特性

インゲンには「つるあり」と「つるなし」の2種類があります。つるあり種は草丈が180cm以上になりますから、ネットなどを利用しての栽培になりますが、長く収穫を楽しめます。一方つるなし種は草丈が50～60cmと低く収穫期間は短いですが、畑の回転も早く効率的です。インゲンは20℃前後でよく生育しますが、30℃以上になると莢になりません。収穫期が暑い時期にならないようにまき時を決めます。プランターでも栽培することができます。

2. タネまき

インゲンは連作すると生育が劣ります。なるべくならマメ類を3～4年栽培していない畑を選びます。



インゲンのタネを水に浸すと、乾燥したタネが水分を一気に吸収することによって双葉になる部分に亀裂が起り、正常に発芽できないことがあります。数日間は雨が降らない日を選び、タネをまく1日前に畑に充分水をやっておき、タネまき当日から数日間は水をやらないで置き、土の表面が乾いてきたら水をやります。

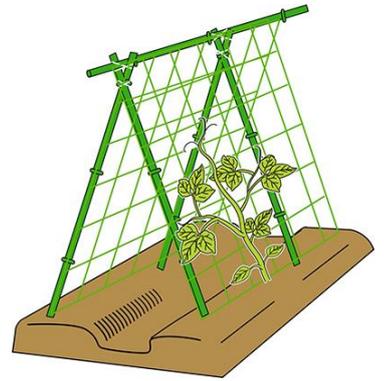
タネは水に浸さない



発芽してきたら間引きをし、元気の良い1本を残します。間引きにはハサミを使い、根元を切り取り行います。

3. 栽培管理

つるあり種の場合、本葉5枚前後に生育したらつるが伸びてきますので、早めにネットを準備します。追肥は花が咲いて莢が成りだしたところから1㎡あたり化成肥料30gを約10日置きに施します。追肥した後は雨水だけに頼らず、定期的にかん水を行えば肥料の効きが良くなります。



つるなし種も草丈が50cm以上になると倒れやすくなるので、短い支柱をしてテープで誘引するとよいでしょう。

なお、つるなし種でも畑に肥料分が多い時や高温や日照不足でつるが伸びることがありますが、長く伸びてきたら先端で摘芯するとつるが伸び続けることはないの引き続き栽培を続けます。



4. 収穫

品種によって収穫サイズは異なりますが、花が咲き出してから約2週間後から収穫できます。莢の中の豆が目立たないうちに収穫します。とり遅れると株の負担が増え、収量も減ります。若菜気味で収穫しましょう。



● 栽培例 ● まく時期 ● 収かく時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地				●	●	●	●	●	●			
中間地				●	●	●	●	●	●			
暖地				●	●	●	●	●	●			